

「ふくい2030年の姿」における記載について

	ふくい2030年の姿（平成17年3月）	ふくい2030年の姿・II（平成21年3月）
新しい人間像	<p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアやNPO等が安定的に活動を継続できる仕組みが重要 ・地域活動への「参加」が地域への「誇り」につながる好循環を創出 	<p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の手で地域の幸福度（QOC：Quality of Community）を向上 ・つながりの主役が「地縁」から「子ども・高齢者を通じた縁」へ
	<p>【特徴的なデータ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動行動者率（15歳以上）（2001年） 福井：36.6%（全国5位） 全国平均：28.4% ・人口1万人当たりのNPO認証数（2004年） 福井：1.44（全国6位） 	<p>【特徴的なデータ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井市自治会加入率：84.6%（2001年度）→83.0%（2004年度） ・地域のつながりが弱くなった理由：「人々の地域に対する親近感の希薄化」 55.3%（2007年 内閣府「国民生活選考度調査」）
	<p>【2030年のふくい】</p> <p>○「三世代近居」が支える家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て、介護、地域活動、単身高齢者といった課題を地域社会と三世代近居が解決 <p>○地縁の復活と地域の自立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役引退後の「団塊の世代」が仲間意識の強さやネットワークの広さを活かし、地域社会の担い手として地縁の復活に力を発揮。地域の問題は地域で解決する節度と責任を持つ自立した地域社会を実現 ・地域の課題について、地域住民自身が様々な情報をもとにサービスと負担を選択できる「地域自治」を確立 <p>○新しいつながり—広がる「福縁」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地縁」、「血縁」、「職縁」に加えて、特定の目的の下で有志（「個」）が集まる「福縁（※）」による活動が広がり、子育て、防犯、まちづくりなどの課題に自主的に取り組んでいく社会を実現 ・社会貢献活動に直接参加できない個人や企業が、活動の支援を目的とした「寄附」を積極的に行う社会に変化 <ul style="list-style-type: none"> 〔※福縁：特定の目的のために有志が集まり、趣味などの活動をするところに生まれる「つながり」を指す 「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕 <p>○縁（えん）の拠点「縁ステーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民一人ひとりが自分のできる地域活動に参加できる「縁ステーション（※）」を設置し、「漏れのないコミュニティ」を形成 <ul style="list-style-type: none"> 〔※縁（えん）ステーション：公民館や集会所などを活用して、地域住民が運営する場所。「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕 	<p>【2030年のふくい】</p> <p>○自己実現家族から未来実現家族へ（「相互実現家族」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の自己実現を支える家族から、家族の希望を実現するための役割を家族内で分担しながら、相互に支え合う未来実現家族に変化 <p>○「地域の幸福度（QOC※）」向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の幸福度（QOC）の向上を目指し、住民や企業、学校が一体となって活動することで地域における「一人一役」が定着 ・達年世代（※）が中心となり、地域の医療・介護、農業、治安、交通の分野の社会的企業（ソーシャル・エンタープライズ）を設立。得られた利益やノウハウを地域社会に再投資 <ul style="list-style-type: none"> 〔※QOC：Quality of Community。地域の暮らしの質を表す指標 「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕 〔※達年：社会の中でアクティブに行動する60歳～75歳までの人のことを指す 「ふくい2030年の姿検討会」の造語〕 <p>○つながりの主役が「子縁・ジェロ縁」に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子縁」や高齢者の活動による「ジェロ縁」などが、人とのつながりが重視される子育てや介護のシーンにおいて、住民が安心感を持てる社会基盤に <p>○公立学校が「地域の拠点施設」に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもや高齢者が歩いて通える」生活圏にある公立小中学校に「福縁サロン」（世代を交流させる地域のたまり場の施設）が設置され、地域の活動拠点に ・「福縁サロン」が地域のワンストップサービスセンターになり、日常生活や地域活動をする上で、新たなつながりを生み出す拠点に

